

によるべき道程もなかなか多いわけである。かゝる處に宗教民族學の特色を荷ふ所以である。

後篇はかゝる前篇の意をうけて宇野氏独自の立場で、縦横に又該博に南洋土人の宗教の狀態を書き整へてゐる。十二章より二十一章に及んで、(1)靈魂觀念の發生、(2)靈魂と靈質、(3)靈魂の種類と分化、(4)三章にては土人の靈魂に對する觀念を個々に比較研究してゐる。(5)不死の觀念、(6)來世の觀念の發達、に於いては、輪廻轉生や賞罰應報や復活、再現の欲求、又は天國と地獄の問題等を史實に照して印度、エジプト、ペロニア、ギリシャあたりにも及んで彼此比較を試みてゐる。(7)宗教的儀禮とその態度、(8)呪術の發生、(9)呪術行爲の原型、にありては宗教的經驗や活動の重要な部分が行爲に現はるゝこと及び此れに呪術的な效果の加はることとを述べてゐる。そして供儀密儀祈禱など文化史のいづれかの一役を現はしてゐることや、神と合一を目的とするには實利的な慾求の現はれてゐるけれども又聖なる思の直接の現はれてゐると述べてゐる。(20)苦行の意義として禁欲の形式、方法、動機、結果などの一章を加へ、(21)宗教の社會的表現、にてさらにふりかへりて宗教的生活と社會的協同とよりして宗教活動が個人の慾望を動機とするもの、中相互類似によりて團體組織をなすものと、社會自らが活動する特殊の宗教團體とを分ちて宗教の社會學の見解を述べてゐる。

以上本書は個々の題目を部分的に取扱ひつゝ、大般に互りて其の理論を連絡せる處に本書の表題をよくあらはしてゐる。先に出版

された宗教民族學の中へ到らんとする意味に於て誠に結構なる論文集であるといへる。(阿部)

(同文館發行、定價參圓貳拾錢)

### 現象學概説附精密論理學瞥見

大關將一著

廣義の哲學に關する歐米の名著の翻譯や邦人の有益なる論著を數多く出版して、世人に學益を興へつゝある理想社出版部に於て新たに新興哲學叢書が計畫され、その第一冊として大關氏のこの著が出版された。

我が國で現象學を叙説し、或は概論した著述は既に其の數が少くないが、初學の人々の手引となり、その上、現象學とは如何なるものであるかといふことを、あまり哲學的素養の深くない人々に、はつきり把握させるのに適當したものは缺乏して居たやうに思はれる。本書は著者の自序にある通り、「これから現象學の研究をなさんとする人の手引となること、現象學とはいかなるものかを知らんとする人に現象學の概觀を興へること、の二つを目的」としてフツセルの考へ方に専ら即して起筆されたものである。その爲に文章は非常に平明に理解しやすく書いてあつて、時としてやゝ繁雜だと思はれるほど叮嚀であるから、著者の目的は先づ達せられたものと言つても良からうと思はれる。又終りにフツセルの著書を紹介し、邦人の斯の學に關する諸著を簡単に紹介してゐるのは、入門書としての本書にふさはしい處置には違ひがな

い。但し本文の中に使つてある學用語やフツセルの諸著を一切邦譯してあるのは、入門書の特性から當然の事だとしても、これらの語や書名が初出する場合にドイツ語を併記していたゞきたかつたと思ふ。本書以上に進まんとする讀者にとつて適切なやり方だと思はれるのである。

又本書には附録として「精密論理學瞥見」を添へてある。我が國に刊行されてゐる論理學は凡べてアリストテレス以來の思考範圍を一步も出てゐないが、もはや近代の論理學として不十分なものであることは言ふまでもない。本著者の目ざす所は詳細に述べられてない、只瞥見であるが、この方面の著述の殆ど無い我が學界には、一の刺戟を與へるものであらう。(高橋)

(理想社出版部、定價壹圓七拾錢)

## 景 報

### 京都哲學會公開講演會

本會に於て例年の通り去る十一月二十八日土曜午後一時半より公開講演會を本學文學部第四教室に於て開催した。天候が悪くて、小雨が降りつゞいてゐたけれども、熱心な聴衆は約四百來會され、盛會の中に午後五時閉會した。

講師と講演とは豫告の通り、次のやうであつた。

ライプチヒの心理學 本學助教 岩井勝二郎君  
ヘーゲルの絕對觀念論 本學教授 田邊 元君  
引續き本學教官食堂に於て講師を中心として晚餐會を開く。遠くは臺灣より、全国各地から來會された本會々員が四十一名參加され、これ亦盛會であつた。

### 教育研究會

昨年十二月一日火曜大阪府豊能郡箕面村にある箕面學園及び「家なき幼稚園」を參觀す。共に橋詰せみ郎氏の經營にかゝり、自由主義による新しい教育を施さんとするもので、京阪地方に於ける此の種の教育施設として注目すべきものの一である。

十二月十一日金曜夜學生集會所に於て左の講演あり。

教授作用に於ける心理的基礎と論理的基礎

臺北帝大教授 伊藤 猷典氏

氏は教授法研究史上に於ける過去の諸大家の説を逐次検討した後、教授の内容たる文化財は論理的に排列されるべく、生徒をして受容せしめる教授の様式は心理的基礎に依るべきものであると氏自らの説を以て結論を與へられた。

### 教育學讀書會

十二月八日火曜午後一時より教育學研究室に於て、

Die Mitchellkelt

大西 貞一君